



仙台・宮城元気ニュース

令和4年度第5号(通算第78号)
令和4年12月26日発行-隔月発行-
【発行】宮城県仙台地方振興事務所

～仙台地域の明るく元気な情報を発信!～

地
振

仙台地域ミライ企業図鑑～地域産業説明会を開催しました
【地方振興部】 2

地
振

第19回仙山交流連携促進会議を開催しました
【地方振興部】 2

畜
振

特定家畜伝染病防疫演習を実施しました
【畜産振興部】 3

農
整

特定家畜伝染病発生時における防疫措置の協力業務に関する
協定書(地域協定)を締結しました
【農業農村整備部, 畜産振興部, 地方振興部】 3

林
振

みんなで広げる「木育」活動推進を目指して
【林業振興部】 4

農
整

多面的機能支払活動研修会が開催されました
【農業農村整備部】 4

農
振

農事組合法人仙台イーストカントリーの佐々木均氏と佐々木千賀子氏が
「緑白綬有功章(農事功労者 複合部門)」を受章しました
【農業振興部】 5

農
振

みやぎ農業未来塾(農薬基礎勉強会)を開催しました
【農業振興部(巨理農業改良普及センター)】 5



仙台地域のこの時期おすすめ
観光スポット 観瀾亭(松島町)





11月1日、地域企業の魅力を高校生に伝える「仙台地域ミライ企業図鑑～地域産業説明会」を仙台国際センターで開催しました。仙台地域の様々な業種の企業37社がブースを設け、塩釜高等学校、名取高等学校、貞山高等学校、宮城県農業高等学校、巨理高等学校、東北生活文化大学高等学校の2年生の生徒約450人が参加しました。

参加企業は、会社概要や仕事内容を動画やクイズ形式で説明したり、自社製品を実際に陳列して生徒に触れてもらったり、若手社員の体験談や働く様子について具体的に説明したりするなど、生徒の興味をひくよう様々な工夫を凝らしており、生徒に対し、企業の魅力を印象づける機会になりました。参加生徒からは「色々な職種の話聞いてよかった。」、「職業の視野が広がった。」、「企業のことや働くことについて学べた。」などの感想が寄せられ、生徒にとっても充実した時間になりました。

本事業では、SDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4.質の高い教育をみんなに」、「8.働きがいも経済成長も」を掲げ、地域社会・産業の持続的な発展につながることを目指し、地域企業のPR強化や高校でのキャリア教育の活性化に取り組んでいます。



企業ブースで説明を聞く生徒たち



参加生徒から好評だった企業紹介ガイドブック

第19回仙山交流連携促進会議を開催しました



11月24日に、にぎわい創造活性化施設 Link MURAYAMA（山形県村山市）で、第19回仙山交流連携促進会議を開催しました。

当会議は仙台管内14市町村及び山形県村山管内14市町を対象として、両地域の情報共有と連携方法の模索を目的とし、平成14年度から実施している取組です。

今年度は「『仙山圏域』×『若者』＝『 』」をテーマに、仙山圏域内で特徴的な活動を行っている、株式会社ローカル・インキュベート代表取締役の末永玲於氏、一般社団法人ONE TOHOKU HUB代表理事の手島慧氏及び株式会社さとゆめの手嶋七恵氏をゲストとして、トークセッションを行いました。

シェアハウスや都内アンテナショップ、若者コミュニティ運営など、地域活性化事業に取り組んでいるゲストから、「『買い物は仙台、観光は山寺』という従来の考え方から、よりディープな所を探ることで伸びしろが生まれる」、「キャンピングカーで両地域を周遊する観光事業があれば面白い」など、仙山圏域の今後の可能性について意見交換が行われました。

今後も、仙山交流事業を通じ、地域課題解決の糸口となるようなきっかけを作っていきます。



トークセッションの様子

11月4日、亘理町佐藤記念体育館で、豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病が発生した際に、関係者が一丸となって迅速な防疫対応が行えるよう、特定家畜伝染病防疫演習を実施しました。

当日は、県、市町村、警察署等の関係機関から108人が参加し、防疫資材の搬入・搬出、支援センター・農場前仮設テントの設置運営、作業従事者の健康調査、サポート業務及び農場内防疫措置の各作業内容について演習を実施しました。防疫演習は、毎年実施していますが、今回は新たな試みとして、資材搬出にカゴ台車を活用しました。これにより搬出作業の省力化と迅速化が図られました。

今シーズンは、高病原性鳥インフルエンザが異例のペースで全国的に発生しており、嚴重な警戒が必要と考えられます。今回の演習を通して各班の役割と業務内容を再確認するとともに、市町村や関係機関と連携し、初動防疫体制の強化に努めてまいります。



農場内防疫措置訓練の様子



カゴ台車での防疫資材搬出

特定家畜伝染病発生時における防疫措置の協力業務に関する協定書（地域協定）を締結しました ▶ 農業農村整備部・畜産振興部・地方振興部

仙台地方振興事務所長と仙台家畜保健衛生所長は12月15日、管内での特定家畜伝染病発生時等における防疫措置への協力業務に関し、一般社団法人仙台建設業協会会長、宮城県建設業協会名巨支部長及び塩釜支部長と協定書（地域協定）を締結しました。

昨年度は、大河原町、丸森町でそれぞれ豚熱、石巻市で高病原性鳥インフルエンザが発生しましたが、その経験を踏まえ、これまで協定書に書き込まれていなかった埋却作業に至るまでの「試掘」や殺処分作業後の「袋詰」、「積込み」などを追加し、9月21日に一般社団法人宮城県建設業協会会長と県知事との間で締結した新たな協定書を踏まえた内容となっています。

この地域協定の締結により、万が一の管内の特定家畜伝染病発生時において、さらに迅速な防疫措置につながる事が期待されます。



協定書の手交式の様子

都市部の緑豊かな仙台圏「杜の都」は森や木を身近に感じることができる地域で、SDGsの目標15「陸の豊かさを守ろう」となる森林づくり・木づかい活動が多く行われています。

木材の良さやその利用の意義を学ぶ教育活動「木育（もくいく）」の仙台圏における活動をご紹介します。

【大学キャンパス林での「木育」】

公立大学法人宮城大学大和キャンパスは、樹齢60年のキャンパス林に囲まれており、昨年度より、大学研究室で森林講座をはじめ、間伐の実践を行っています。大学創立50周年に向け「みんなで整備するキャンパス林」として「木育」活動が行われています。

【建築中の県産木材社屋での「木育」】

東北ボーリング株式会社（仙台市）は、県産材のスギを用いた木造社屋を建築しており、森林資源の活用について学ぶ大学生や建築学を学ぶ高校生を対象に社屋の見学会を行っています。「木を伐って、使って、植えて、育てる」活動に寄与しながら、「みんなで広める木造建築」として「木育」活動の取組が始まっています。



大学キャンパス林での間伐の様子



県産材を使った木造社屋の見学

多面的機能支払活動研修会が開催されました

▶ 農業農村整備部

11月17日、七ヶ浜町内で、多面的機能支払活動研修会が開催されました。

この研修会は、近年多発している草刈り作業時の事故を踏まえ、安全かつ省力的な雑草管理方法を検討すべく、七ヶ浜広域運営が主催したものです。当日は、運営委員会の構成員約20名が参加されました。

株式会社オーレックによる協力のもと実施されたラジコン草刈り機の実演会では、機械の使用方法や注意事項について説明を受けた後、参加者も実際にラジコン操縦機で操作し、ラジコン草刈機の安全性や性能を実感していました。

当事務所からも、雑草管理の負担軽減策として、除草シートの施工例やホームセンターで購入する際の選び方のポイント等について説明を行いました。

この研修会を通して参加された方々は、安全かつ省力的な雑草管理方法について理解を深めた様子でした。



オーレックによる操作説明の様子



参加者による操作体験の様子

公益社団法人大日本農会が、明治27年から実施する「農事功績者表彰」において、今年度は本県から推薦した農事組合法人仙台イーストカントリー（仙台市）の佐々木均氏、佐々木千賀子氏が「緑白綬有功章（りよくはくじゅゆうこうしょう）（農事功労者 複合部門）」に選定され、11月17日に東京で開催された表彰式で表彰されました。

この表彰事業は、農業における新しい技術や経営の改善に挑戦され、立派な経営を築かれるとともに、地域のリーダーとして技術の導入・普及、産地の形成、青年農業者の育成等に大きな貢献をされてきた農業者及び農業技術の普及、並びに研究開発等に寄与された方々を対象に、歴代総裁宮殿下（現在は、第7代秋篠宮皇嗣殿下）により表彰されるものです。

今回の表彰の事由は、水稻の多品種栽培や6次産業化への取組により地域農業復興のモデルとして活躍したことに加え、地域農業を支える次世代の人材育成に寄与したことが高く評価されました。

誠におめでとうございました。



表彰式会場でのお二人

みやぎ農業未来塾（農薬基礎勉強会）を開催しました ▶農業振興部（亘理農業改良普及センター）

11月22日、亘理農業改良普及センターで「みやぎ農業未来塾（農薬基礎勉強会）」を開催しました。当日は、認定新規就農者や農業法人の採用5年目までの社員等27人が参加し、日々の農作物の栽培管理で農薬を安全かつ効率的に使用できるよう学習しました。

講師の公益社団法人みどりの安全推進協会小川裕作氏からは、①農薬の基礎知識、②農薬の使い方、③農薬の安全使用、④RACコードと抵抗性対策、⑤農薬の処分方法について講演いただきました。また、普及センターからは、今年度から「宮城県農作物病害虫・雑草防除指針」がwebで閲覧できるようになったことを情報提供しました。

参加者の多くが現在農薬を取り扱っている若手農業者で、熱心に受講していました。終了後のアンケートでは、「説明がわかりやすく、見やすい資料で勉強になった」等の意見がありました。

普及センターでは、今後も担い手育成に向けた支援を行っていきます。



勉強会の様子